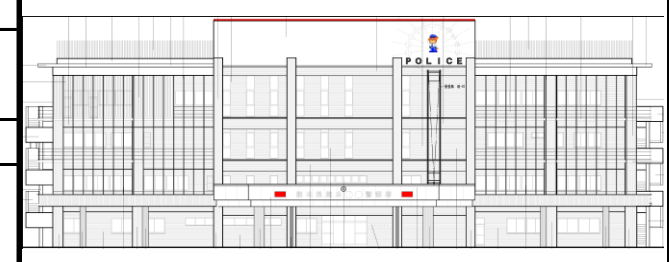
CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	熊本合志警察署(仮称)庁舎新築工	階数	地上4F
建設地	熊本県熊本市北区	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域/準工業地域	平均居住人員	80 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月　竣工	評価の実施日	2016年2月4日
敷地面積	8,199 ㎡	作成者	柳田果李
建築面積	1,697 ㎡	確認日	2016年2月10日
延床面積	4,563 ㎡	確認者	吉永拓郎

■ 外観



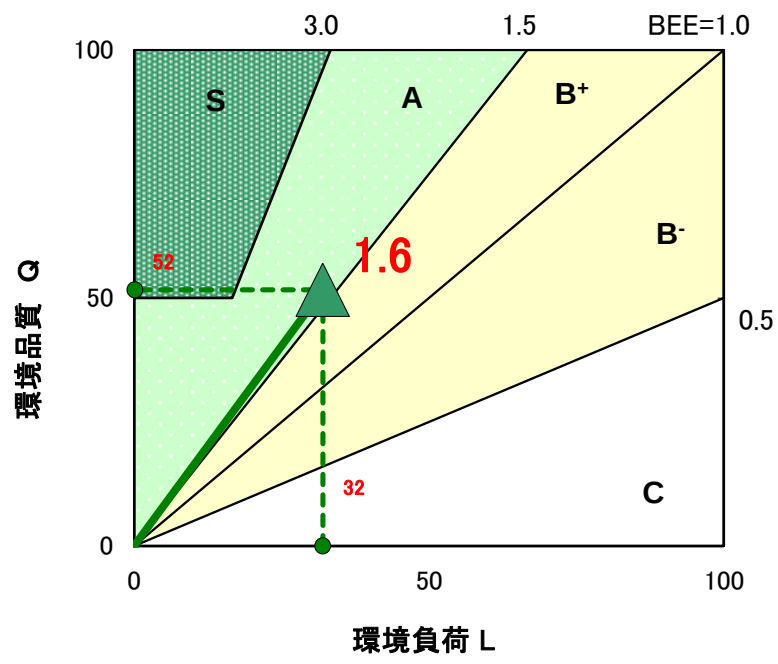
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★☆

BEE = 1.6

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆☆

排出率
83%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
90

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	100.0
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	80.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	85.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

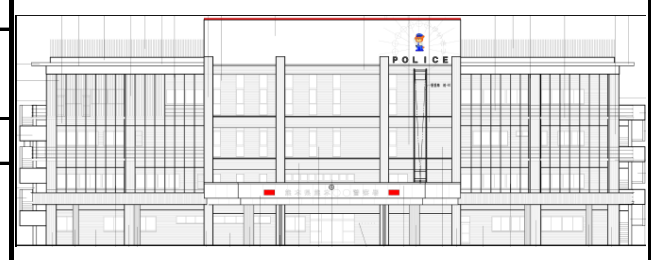
CASBEE® 熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要

建物名称	熊本合志警察署（仮称）庁舎新築工	階数	地上4F
建設地	熊本県熊本市北区	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域/準工業地域	平均居住人員	80 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 竣工	評価の実施日	2016年2月4日
敷地面積	8,199 ㎡	作成者	柳田果李
建築面積	1,697 ㎡	確認日	2016年2月10日
延床面積	4,563 ㎡	確認者	吉永拓郎

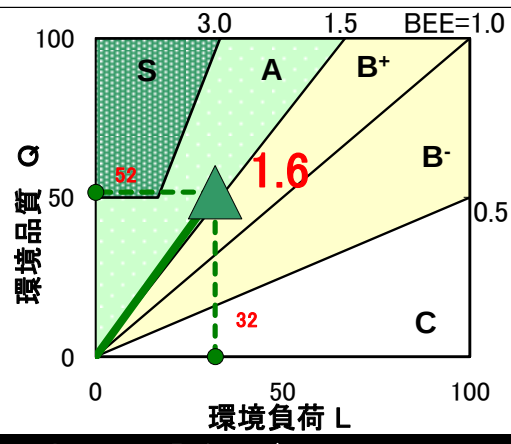
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート

BEE =1.6 ★★★★☆

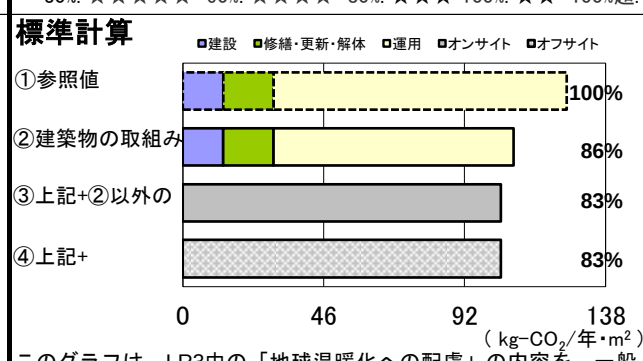
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

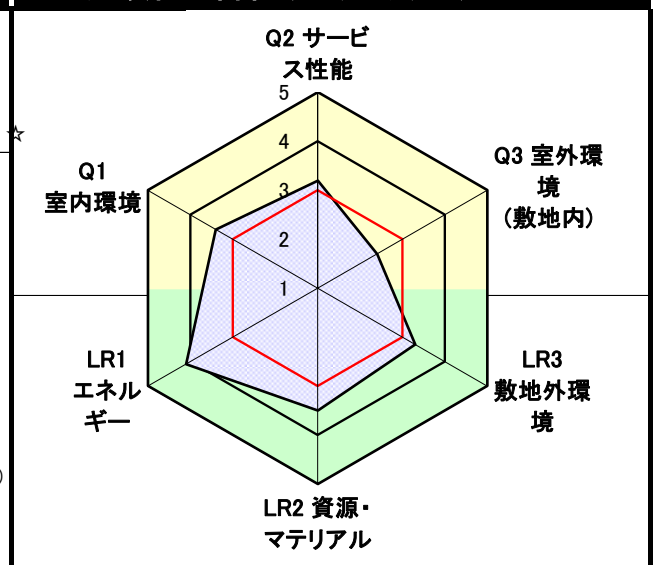
☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

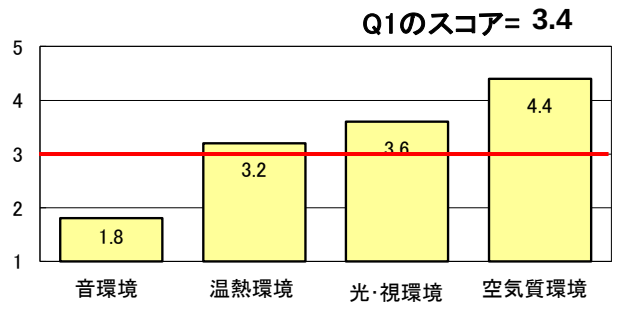
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



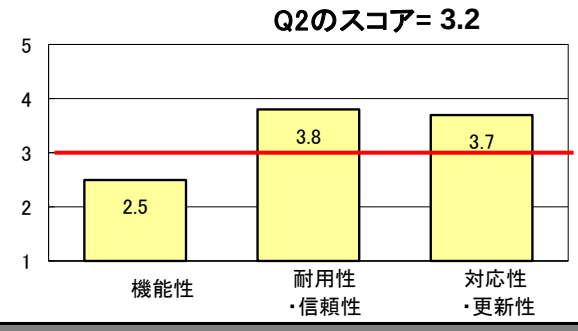
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.0

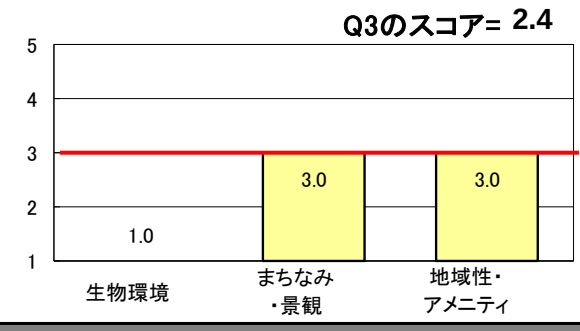
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.4



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.2

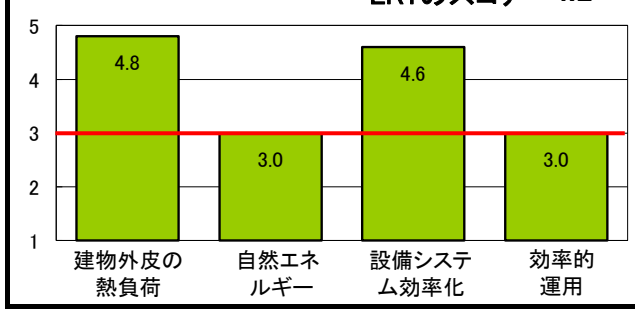


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.4

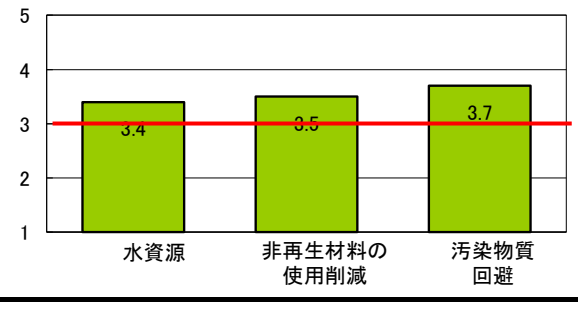


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.7

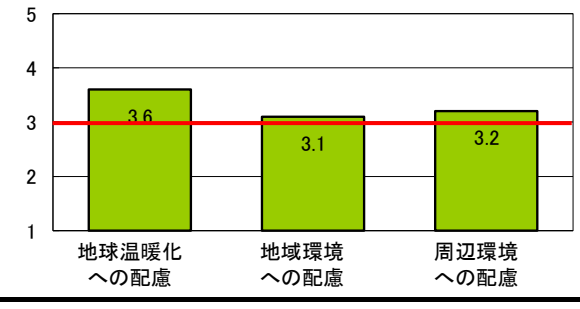
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.1



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.5



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.3



3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 90

重点事項1：温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 =100.0

重点事項2：安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =80.0

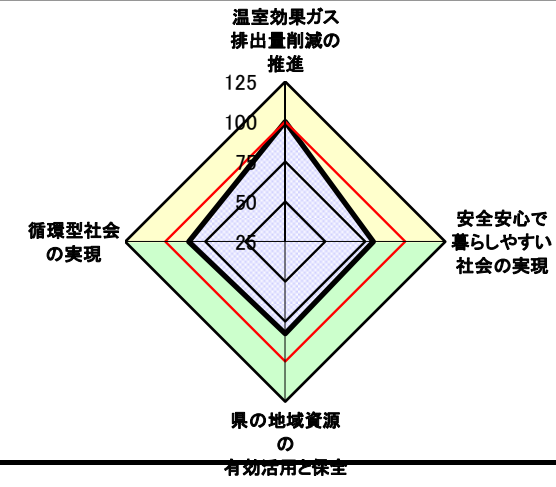
重点事項3：県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 82.5

重点事項4：循環型社会の実現

評価点 =85.5

重点事項の評価（レーダーチャート）



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE−建築(新築)2014年版
熊本合志警察署(仮称)庁舎新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:　CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト:　CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**3.0**
Q1 室内環境			**0.40**		**-**	**3.4**
1 音環境		**1.8**	0.15	-	-	**1.8**
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		**1.0**	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		**1.0**	0.20	-	-	
2 温熱環境		**3.2**	0.35	-	-	**3.2**
2.1 室温制御		**3.5**	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	外壁U=1.261、窓SC=0.336・U=2.13	5.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		**3.0**	0.20	-	-	
2.3 空調方式		**3.0**	0.30	-	-	
3 光・視環境		**3.6**	0.25	-	-	**3.6**
3.1 昼光利用		**3.6**	0.30	-	-	
1 昼光率	昼光率:2.34%	4.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		**4.0**	0.30	-	-	
1 昼光制御	庇・ブラインド	4.0	1.00	-	-	
3.3 照度	照度500lx以上1000lx未満	**4.0**	0.15	-	-	
3.4 照明制御		**3.0**	0.25	-	-	
4 空気質環境		**4.4**	0.25	-	-	**4.4**
4.1 発生源対策		**5.0**	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	室内環境測定、F☆☆☆☆	5.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		**3.6**	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	0.043(1/30以上)	4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	汚染源のない方位に設置、6m以上離れて設置	4.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		**4.0**	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	**0.30**	-	-	**3.2**
1 機能性		**2.5**	0.40	-	-	**2.5**
1.1 機能性・使いやすさ		**1.6**	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		**2.6**	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高:2.7m	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		**3.5**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃控室	4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		**3.8**	0.30	-	-	**3.8**
2.1 耐震・免震		**4.6**	0.50	-	-	
1 耐震性	建築基準法の50%増の耐震性	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.2**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高：4.2m 5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	比率：0.17 4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性		3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材を痛めることなく更新・修繕可能 5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造部材を痛めることなく更新・修繕可能 5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	確保 4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		–	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制	LOW-E	4.8	0.20	-	-	4.8
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		4.6	0.50	-	-	4.6
集合住宅以外の評価(3a.3b)	レベル4.6	4.6	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	グリーン購入適合品、自動単水栓	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシャラン、パーティクルボード	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	分別可能	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤使用なし 4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤（断熱材等）	現場発泡ウレタン 5.0	0.33	-	-	
3	冷媒	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	省エネ設備の導入	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車ｽﾍﾟｰｽの確保 5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音	3.0	0.33	-	-	
2	振動	3.0	0.33	-	-	
3	悪臭	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制	1.0	-			
3	日照阻害の抑制	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満たす 5.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	3.0	0.30		-	

CASBEE熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

（建物・敷地全体の環境に配慮したことに関するコンセプト）
基本方針：
庇を大きく取り、外壁にﾀｲﾙ張、鉄骨部にはメッキの採用をするこにより、建物の耐久性を向上させるよう計画。敷地について、貯留施設、浸透性側溝を採用し、雨水流出を低減するよう配慮し極力緑化を行った。
東西軸を長く建物を計画し、執務空間の快適性の向上を図った。

Q1 室内環境

（遮音、温度、湿度、採光、換気など室内環境に配慮した事項）
・庇を大きく取ることにより、夏場の直射日光を遮ることにより、空調負荷を低減するよう配慮。
・執務室を南側に配置し、外壁面に極力大きな開口を設け、採光及び通風を確保することにより室内環境の向上に配慮。
・室の機能により壁の性能を区分し、適宜遮音壁を配置した。

Q2 サービス性能

（内外装や建物の維持管理などに配慮した事項）
・大きな庇、外壁タイル、鉄骨にﾒｯｷを採用し、建物の耐久性向上を図り、メンテナンス性の向上に配慮した。
・ノーワックス塩ビシートを採用し、室内の維持管理に配慮。
・設備機器、配管類の更新を想定し、更新スペース及び開口を確保するよう計画。
・ゆとりあるPS、EPSを集約して確保する計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

（緑地、景観、機器の排熱などに配慮した事項）
・庁舎を敷地中心付近に配置するよう計画し、隣地への圧迫感及び機器の排熱等の影響を低減するよう配慮。
・極力緑化を行いヒートアイランドを抑制し、空調機器の負荷の低減に配慮。

LR1 エネルギー

（太陽光、太陽熱、高効率機器の採用などに配慮した事項） 太陽光発電設備
30KWを屋上に設置し、系統連係システムとし、発電した電力は全て使用する。
空調機器を高効率型のビル用マルチエアコンを採用した。 空調してい
る部屋の熱を換気で外部に逃がさない全熱交換器の換気扇を採用

LR2 資源・マテリアル

（リサイクル材の使用、雨水の利用などに配慮した事項）
・熊本県グリーン購入推進方針に適合するリサイクル建設資材活用に配慮。
・建設発生土を敷地内で利用するよう計画。
・砕石、アスファルトを再生材を利用した仕様とした。

LR3 敷地外環境

（建物による周辺地域への影響に配慮した事項）
・雨水貯留槽及び流量調整桝を設置し、雨水の急激な流出を抑制し周辺に配慮。
・敷地の芝生化、舗装で砂塵を削減に配慮。
・計画地の水下側の水源地を考慮し、杭工法を水汚染のない工法を選定した。

その他

注） 上記の６つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてＣＡＳＢＥＥで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	熊本合志警察署（仮称）庁舎新築工事

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)　　■使用評価マニュアル：CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	90
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				100	0.40	40.00
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.8	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.6	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				80	0.20	16.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	5.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				85.5	0.20	17.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数